

【発表者について】アンダーラインは本学教員、研究員および技術職員、○は発表者、※は大学院生、卒研生または卒業生

学会名	第44回日本分子生物学会
演題名	ニホンウナギ (<i>Anguilla japonica</i>) の温度に依存した性分化のメカニズム Temperature-dependent sexual differentiation mechanism in Japanese eel (<i>Anguilla</i>)
発表者	○滝沢零土*、 <u>平澤孝枝</u> 、 <u>吉田 室</u> 、原秀磨、* 刈月祥太*
内容	<p>2021年12月1日、第44回日本分子生物学会（パシフィコ横浜）において4年生の滝沢零土さんがポスター発表を行いました。ニホンウナギは日本人には馴染みのある動物ですが、その生態は謎が多く、今もよく分かっていません。本研究では、ニホンウナギの性分化に関して遺伝子の発現から解析をしています。ニホンウナギの性決定は遺伝子（ZZ；雄、ZW；雌）で決まっていますが、養殖下ではそのほとんどが雄化します。このメカニズムを調べるために雄性ホルモンであるアンドロゲンと雌性ホルモンであるエストロゲンに変換する酵素であるcyp19a1という遺伝子の発現と従来魚類の多くで見ついている雄の性決定遺伝子であるdmrt1について調べました。これらの遺伝子の発現がウナギの成長に関係していること、温度依存的に発現が変化することを発表しました。今後これらの調節メカニズムを解明し、雄、雌が養殖下でも確保できると養殖技術が大きく変わる可能性があります。当日は多くの研究者に質問やアドバイスを頂き、次の研究の刺激になりました。</p>
関連画像	